



淡路市海外視察団派遣事業 中国浙江省義烏市視察報告書



平成 29 年 5 月 6 日～9 日(4 日間)

～ 目次 ～

義烏市の概要		1
義烏市とのこれまでの交流		2
淡路市海外視察団派遣事業の概要		3
視察ダイジェスト		7
派遣団員報告書		
淡路市会計管理者	中西 康彰	11
淡路市総務部付部長 （事務所統括担当）兼一宮総合事務所長	坂口 洋子	17
ユーアールエー株式会社 代表取締役社長	井植 啓悟	21
株式会社 森水産 代表取締役	森 淳	25
株式会社 淡味 代表取締役	村津 徳昭	27
淡路市商工会経営支援課 主任	阿津 充俊	30
淡路市企画政策部秘書広報課 国際交流員	薛 秋燕	32

【義烏市の概要】

いうし

1. 義烏市の概要

地名（中国語・簡略字）

义乌市（イーウースー）

場所

中国東南沿海の浙江省の中部に位置する。

中国最大の都市上海から西南に約 300 キロ。

人口

200 万人余り

淡路市の約 40 倍

面積

1105 k m²

淡路市の約 2 倍

経済都市

改革開放開始以来、「商業を勃興し、都市を建設する」という発展戦略のもと、急速に発展した都市。現在 219 の国・地域と取引があり、世界各国のビジネスマンにとって国際貿易を展開する重要な拠点となっている。

市場都市

世界最大の日用品雑貨卸売市場と称される義烏国際商貿城は、5 つの建物に分かれており、総面積 470 万 m² で、1 年間に訪れる外国人バイヤーは 50 万人以上。7 万軒の店舗があり、170 万種類以上の商品が集積されている。全ての店舗を見学するのに 1 年半以上かかると言われている。

見本市都市

国家レベルの見本市が多く開催される。

○中国義烏輸入商品博覧会

開催日：平成 29 年 5 月 6 日(土)～ 9 日(火) 4 日間

場 所：義烏国際博覧センター

平成 28 年（2016）実績

展覧面積：5 万 m²

国際標準ブース：2113 小間

来場者数：17.86 万人

出展企業：1560（100 か国以上）

取引：3 万あまりの商品購入代行意向を達成

出展品目：日用品、食品・飲料品、工芸品、アクセサリ、服飾・服飾付属品など



義烏市位置



義烏市とのこれまでの交流

平成 21 年 12 月

義烏市と貿易を営む企業がきっかけで交流が始まる。

平成 22 年 3 月

義烏市視察団が淡路市を訪問。

以降相互に訪問団を派遣。

平成 25 年 10 月

義烏市からの招待により視察団を派遣。友好交流確認書を締結。

平成 26 年 1 月

義烏市から民間旅行業者を淡路市に招待し、外客誘致に向けた観光交流事業を実施

同年 7 月

淡路市から市長を団長とする友好使節団を派遣。義烏市と友好都市協定を締結。

平成 27 年 10 月

- ・第 17 回日中韓 3 か国地方政府交流会議に参加するため、淡路市から財務部長を団長とする 3 名が義烏市を訪問。
- ・義烏市で開催される世界規模の国際博覧会での展示ブース出展に向け、商工会及び民間企業等 8 名で構成する視察団を派遣。
- ・淡路市 10 周年記念式典に出席するため、義烏市委員会 龔副主席を始めとする 6 名が淡路市を表敬訪問。

平成 28 年 9 月

- ・淡路市観光プロジェクト視察のため、義烏市から知東学会の毛会長を団長とする 4 名が淡路市を訪問。

同年 10 月

民間交流の一環として、義烏市で開催される世界規模の国際博覧会の視察と民間経済交流に向け、商工会及び民間企業等 8 名で構成する視察団を派遣。

平成 29 年 5 月

民間交流の一環として、世界規模で開催される義烏輸入商品博覧会及び日用品卸売市場を視察し、民間交流、博覧会でのブース出展検討に向け、商工会及び民間企業等 7 名で構成する視察団を派遣。

これまでに、義烏市からは 15 回、淡路市からは 9 回相互に交流を深めている。

淡路市海外視察団派遣事業の概要

【期間】平成 29 年 5 月 6 日（土）～5 月 9 日（火）4 日間

【内容】 ・中国義烏輸入商品博覧会の視察
・義烏国際商貿城（福田市場）の見学及び企業見学
・義烏市人民政府及び知東学会などとの意見交換

【目的】

淡路市では、世界一の日用品雑貨市場を中心に目覚ましい経済成長を遂げている中国浙江省義烏市と両市の発展に向け、経済交流、観光交流、国際交流など様々な分野において、官民一体となった交流を進めていくため、平成 26 年 7 月 11 日に友好都市協定を締結しました。

今回、民間交流の一環として、世界規模が開催される義烏輸入商品博覧会及び日用品卸売市場などを視察し、民間経済交流、博覧会でのブース出品検討に向け、視察団を派遣しました。

【団員名簿】

役職	氏名	所属	構成
1 団長	中西 康彰	淡路市役所会計管理者	行政関係
2 副団長	坂口 洋子	淡路市役所総務部付部長 (事務所統括担当・一宮事務所長)	行政関係
3 団員	井植 啓悟	ユーアールエー株式会社 代表取締役社長	民間企業
4 団員	森 淳	株式会社森水産 代表取締役	民間企業
5 団員	村津 徳昭	株式会社淡味 代表取締役	民間企業
6 団員	阿津 充俊	淡路市商工会経営支援課 主任	商工団体
7 団員	薛 秋燕	淡路市役所企画政策部秘書広報課 国際交流員	行政関係

【行程表】

月 日	行 程（スケジュール）
5 月 6 日（土） 【義烏市泊】	淡路市 関西国際空港 中国杭州蕭山国際空港 義烏幸福湖国際 会議中心(宿泊先ホテル) 夕食 夜市場見学

5月7日(日) 【義烏市泊】	義烏輸入商品博覧会視察 昼食 義烏市都市計画展示館見学 義烏国際商貿城(福田市場)1区、4区見学 義烏市人民政府、教育局と懇親会
5月8日(月) 【義烏市泊】	義烏第六中学校見学 義烏市綉湖小学校見学 昼食(小学校給食体験) 華統肉加工工場見学 義烏港見学 知東学会(民間企業団体)と懇親会
5月9日(火)	義烏国際商貿城(福田市場)5区見学 義烏副食品市場見学 昼食 杭州蕭山国際空港 関西国際空港 淡路市

【主な訪問先】

義烏輸入商品博覧会

2017年5月6日～9日までの4日間開催され、今年で3回目の開催となります。展示スペースは5万m²で、国際標準展示ブースを2113小間設置し、日用品、食品・飲料品、工芸品、アクセサリ、服飾・服飾付属品などを展示しています。4日間で100ヶ国以上から約1,512社の企業が出展しました。

義烏国際商貿城(福田市場)

義烏国際商貿城は、「小商品の海、バイヤーの天国」と称され、1982年の創立以来、発展を続けてきました。

5つの建物に分かれており、総面積は470万m²で、通路の両側には1.5m×3mほどの広さの店舗が並び、商品があふれています。現在では、6万軒以上の店舗があり、170万種類以上の商品が取り扱われ、仮に1つの店舗を3分、1日8時間見学としたら、全ての店舗を見学するのに1年間以上かかると言われています。

また、一年あたりの取引高は、20年連続、中国全土の商業市場のなかでトップを占め、世界最大規模の小商品卸売市場として評価されています。

義烏都市計画展示館

2016年1月に完成した施設です。2階建てで、総工費は約17億円で展示面積は12,000m²です。館内は8つのコーナーに分かれており、映像、写真、模型を通して義烏市の歴史文化、都市計画に触れることができます。

義烏港

義烏港は税関兼貨物検査検疫機能の内陸無水港です。2回の工事を経て建設されました。一期工事の敷地は394坪で、税関、検疫事務棟と3階建て34.9万m²の外貿倉庫が建て

られています。コンテナトラックは倉庫3階まで直接進入することが可能です。二期工事の敷地は656坪で、通関、商品検査検疫場とコンテナ積載場が建てられて、トラックがコンテナを積載したまま内容物をチェックする施設があり、約5分で検査を行うことができます。

浙江華統肉製品有限公司

2001年に設立し、飼料開発、加工 飼養 肉製品加工 販売という一貫通貫生産方式を採用して事業を行っています。中国国内のモデル企業として注目を集めている。

【面談者リスト】

5月6日(土)

杭州蕭山国際空港への出迎え

1. 龔 遠航 義烏市教育局弁公室 科員

義烏幸福湖国際会議中心での出迎え

1. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 科長

5月7日(日)

義烏輸入商品博覧会、義烏都市計画展示館、義烏国際商貿城(福田市場)1区、4区見学、義烏港見学

1. 王 烈鋼 義烏市人民政府外事と僑務弁公室香港マカオ事務弁公室 副主任

2. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 科員

3. 謝 璐 現地通訳

義烏市人民政府、義烏市教育局関係者との交流会

1. 盛 秋平 中国共産党義烏市委員会書記(前義烏市長)

2. 王 建新 義烏市教育局長

3. 王 烈鋼 義烏市人民政府外事と僑務弁公室香港マカオ事務弁公室 副主任

4. 虞 旭榮 義烏市教育局弁公室 主任

5. 龔 遠航 義烏市教育局弁公室 科員

6. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 科長

7. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 科員

8. 謝 璐 現地通訳

5月8日(月)

義烏第六中学校見学、義烏市綉湖小学校見学

1. 王 新偉 義烏第六中学校 校長

2. 楼 凱明 義烏第六中学校 書記

3. 王 鴻 義烏市綉湖小学校 校長

4. 余 愛軍 義烏市綉湖小学校 書記

5. 謝 璐 現地通訳

浙江華統一肉製品株式会社見学

1. 游 秀峰 浙江華統一肉製品株式会社 肉製品事業部 総経理

知東学会との交流会

1. 毛 文傑 義烏市知東学会 会長 兼 日中産業友好協会 浙江支部 支部長

2. 万 紹強 義烏市知東学会 理事長 兼 上海同濟生物製品有限公司 社長

3. 徐 晨亮 義烏市青年旅行会社 副総経理

4. 邱 伯青 温州義烏商会副会長

5. 方 寒聡 自玩自健体育発展有限公司 副総経理

5月9日(火)

義烏国際商貿城5区見学、副食品市場見学

1. 龔 希明 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 科長

2. 湯 玉婷 義烏市人民政府外事と僑務弁公室 科員

3. 謝 璐 現地通訳

★ 視察ダイジェスト ★

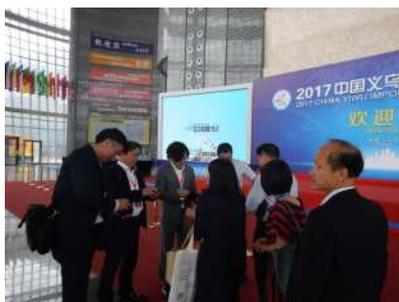


搭乗口にて



到着後の夕食

5月6日(土)



5月7日(日) 義烏輸入商品博覧会視察





5月7日(日) 義烏都市計画展示館視察



模型



国際商貿城正面玄関



店舗の様子



タッパ探し



5月7日(日) 義烏国際商貿城(1、4号館視察)





記念品贈呈

5月7日(日) 人民政府の方々との交流会



高校見学

小学校書道室にて

小学校見学

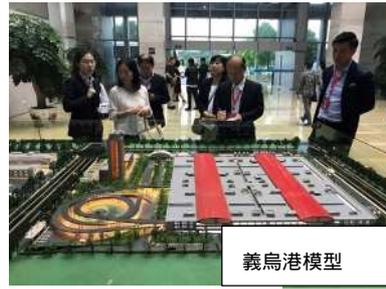
小学校給食体験

高校歓迎セレモニー

高校校庭

5月8日(月) 義烏第六中学校・綉湖小学校見学





5月8日(月) 華統肉加工工場、義烏港見学



5月8日(月) 知東学会(民間企業団体)の方々との交流会



5月9日(火)義烏国際商貿城と副食品市場見学



街角スケッチ



淡路市海外視察団派遣事業（中国浙江省義烏市）報告

淡路市会計管理者 中西 康彰

1 淡路市の国際交流事業（義烏市）

平成21年12月 交流が始まる

平成22年 3月 義烏市視察団が淡路市を訪問

平成25年10月 淡路市視察団が義烏市を視察

平成26年 7月 淡路市友好使節団が義烏市を訪問し友好都市協定を締結

2 平成29年度淡路市海外視察団派遣事業

（1）義烏市人民政府等行政関係者との交流

日 時 平成29年5月10日 17時30分から（現地時間）

場 所 幸福湖国際会議中心ホテル

出席者 盛 秋平 書記（前義烏市長）、王 建新 副主席兼教育局長ほか

内 容 歓迎のあいさつ、今後の交流の継続



その他（今後の義烏市）

平成25年 習近平国家主席の「一帯一路」構想を提唱

[一帯一路]中国が提唱する現代版シルクロード構想

中国から中央アジア、欧州に至る経済圏構想

義烏市は陸の拠点（一帯）として位置付けされる

平成29年1月 義烏市からロンドンへ国際貨物列車(12,451km)が初めて運行される。

平成29年5月 一帯一路首脳会議（北京 約130か国参加）

中国製品の輸出拡大、投資の活発化が予想される

(2) 知東学会(民間企業団体)との交流

交流メンバー 毛文傑会長、万紹強理事長ほか
四川料理を共にしながら友好を図る。

明石海峡大橋、西海岸の夕陽を観光スポットに等の提案あり



(3) 中国義烏輸入商品博覧会

期 間 平成29年5月6～9日(4日間)

場 所 義烏国際博覧中心

面積等 5万平方キロメートル、約2000ブース

展示等 家庭用生活用品、工芸品、服飾品

その他 来場者 10万人

入場料50元(約900円)



静岡県の展示状況など

- ・シイタケ、かつお節 ・お菓子(源氏パイ、平家パイ) ・お酒
- ・醤油 ・紙おむつ ・いわしカレー ・ウエットティッシュ
- ・プラモデル ・木工品南部鉄器
- ～～ 安全性、高品質、特殊性のあるもの ～～

南部鉄器、木工製品の販売状況

- ・南部鉄器の高級品 5,800元(約10万円)
- ・木製工芸品 2,400元(約4万円)
- ～～ 高級感のあるもの ～～



(4) 義烏国際商貿城 (福田市場)

開設 2002年オープン

店舗 6万店舗 (面積は東京ドーム30個分)

商品 日用雑貨170万種 (おもちゃ、造花、アクセサリー、装飾工芸品等)
100円ショップの商品問屋など

その他 20万人のバイヤー



(5) 義烏第六中学 (高校)

全校生 約1500人、教師 約200人

教師一人あたりの生徒数 7.5人 (日本の高校 14人)

全寮制 普通科 (基礎型課程、拓展型課程、探究型課程)

特色ある教育: 伝統文化 (書道、切り絵、工芸) を学ぶ



(6) 義烏市綉湖小学教育集团

1912創立 児童 約1600人 36クラス

校訓は「誠実・好学・活発・向上」



【学校視察で感じたこと】

- ・歴史、伝統、文化の習得を重要視している。
- ・図書（著名人など）の学習を通しての人間形成を実施している。
- ・教育施設（ホール、グラウンドなど）が充実している。

3 最後に

地形上7割の山に囲まれた義烏市は、その特質から、かつては貧しく地味な地方の都市でしかなかった。鄧小平氏の「富める者から先に富めばよい。」の改革開放政策（1978年）により、近隣国有企業の在庫品の卸売りをする「小商品城」を設立するなど、各種のインフラ整備を積極的に推進し、小商品経済が飛躍的に発展した。今では、100円ショップの多くが義烏市の市場から日本に輸入されている状況である。

現在総人口は200万人となり、日本の長野県の人口に匹敵する。今後も更なる発展が予想され、中国義烏輸入商品博覧会や義烏国際商貿城（福田市場）で見たものは予想を超えるスケールであった。

その市場では、中東はじめ世界各地のバイヤーが訪れているので、世界に繋がっているとも言えるであろう。折しも5月14・15日に北京では、29カ国の首脳を含む130か国の代表を集めて、習近平指導部による現代版シルクロードの「一帯一路」経済圏構想に関する国際会議が開催された。今後この構想が実現されれば、中国と中央アジア、ヨーロッパを含めた一大経済圏となる可能性があり、義烏市から中国に留まらず、ヨーロッパまで結びつく可能性を秘めている。

今回の義烏国際商貿城（福田市場）で見たものは、日用雑貨などがここぞとばかりに数多く並べており、一つの商品でも材質、規格が少し異なるものが数々並べてあった。中国国内の消費にとどまらず、世界各地への流通拠点となっているようである。

また、中国義烏輸入商品博覧会で見た日本製の紙おむつ・マスク・化粧品・日用品などは、中国国内において日本商品の安全性に信頼があることから、今後も継続して消費されていくものとなるであろう。また、日本の南部鉄器、木工商品は高級感があり、富裕層の贈答品などとして購入され、その他日本独自の素晴らしい物品は販路拡大の余地があるように思われる。

淡路市の「たまねぎ」、「淡路ビーフ」などの特産品についても、その味の素晴らしさ、高級感をうまくPRすることができれば、義烏市を経由して中国に販売することが可能なように思われる。

また、今回の視察においては、王建新義烏市教育局長らの勧めにより、義烏第六中学（高校）、義烏市綉湖小学教育集団を視察見学した。

視察で見る限り、校舎、講堂などの教育環境は素晴らしいものがあり、芝生のグラウンドや、電光掲示板による歓迎の表示には驚いた。また教師にお

いても、作品の芸術力のレベルは相当なものであり、生徒たちに与えるものは素晴らしいものであると考えられる。

授業内容については、中国共産党の方針と思われるが自国の歴史、伝統などを重要視しているようであり、日本の教育においても参考にすべきところはあるように思う。

最後に、義烏市は、関西空港から2時間半のフライトと1時間余りの車による移動で案外身近に行くことができる。淡路市と義烏市人民政府の行政の交流とともに、民間レベルの交流がますます発展し、淡路市の地域活性化に繋がることを期待する。

平成29年度 淡路市海外視察（中国義烏市）報告書

総務部付部長（事務所統括担当）兼一宮事務所長 坂口 洋子

淡路市海外視察団派遣事業として、5月6日（土）から9日（火）までの4日間、行政から3名、民間企業等から4名の計7名で民間経済交流、博覧会でのブース出展検討に向け、世界的規模で開催される中国義烏輸入商品博覧会及び日用品卸売市場を視察しました。また、今年は、初めて義烏第六中学校・義烏市綉湖小学校の見学も行いました。



義烏市は、人口220万人で、そのうち地元人口は78万人、それ以外は全て外来人口です。

【義烏国際商貿城（福田市場）見学】

世界小商品の都と言われており、日用品・雑貨などの小商品貿易の中心都市として海外に知られています。一番有名なのは、福田市場のスケールの大きさと、想像以上のものでした。市場は、1区から5区のブロックに分かれており、今回、視察団は1区にある政府指定のおみやげ店を訪れました。店内は、世界の品々が並べられており、瞬きできないくらい、ひとつひとつの品々に心を奪われました。その中で、心ときめくカップが目に留まり、薛国際交流員に私と店主との間へ入って値段交渉の通訳していただき、福田市場で商品を購入しました。双方満足の結果で商談が成立できるなど、買い付けの苦労と楽しさを味わうことができました。



【2017 中国義烏輸入商品博覧会 見学】

義烏市人民政府は、5月6日から9日まで開催された中国義烏輸入商品博覧会に、インド・日本などの国から30名を招待しました。会場内の展示区画は、5つの扇形になっており、私たちは、まず、日本の商品が展示されているコーナーへ向いました。

㈱コーヨー化成の眠気スッキリタオル“ギラギラ君”、お肌をすこやかに保つオリーブオイル配合のウェットシートなどの商品には、日本を代表する富士山の絵が入っており、人目を引いていました。同様に、源氏パイ・平家パイ、日本でよく食べるカンパン、トランプ(ビスケット)、カットパンなどで有名な三立製菓(株)が、富士山の絵ハガキの上に商品を載せアピールしていました。それ以外にも、いわしカレー、醤油、しいたけ、南部鉄製品などが人気で、日本製紙クレシア(株)のベビー用の紙おむつとともに多くの人を集めていました。



【義烏都市計画展示館 見学】

都市計画展示館が完成したのは、平成28年1月で、総工費は約17億円、展示館面積は12,000㎡です。展示館は、1階と2階で計8コーナーに分かれており、その中の3コーナーで義烏市の歴史文化に触れることができました。館内には、大規模なスクリーンが設置されており、その地で生まれ育った

昔の人が、そこで暮らす生きざまや、自分の力で生き抜いてきた様子を映像と音楽でストーリー化していました。また、紹興酒を作ったことで有名な「朱 丹溪」さんの名跡なども紹介されており、商人の力強さに感動し、目頭が熱くなりました。



【義鳥第六中学（高等学校）見学】生徒数 1,500名 先生 200名

義鳥市には、115校の小・中・高校があり、淡路市海外視察団として、初めて学校見学を行いました。115校の中でも外国人を受け入れられる学校は25校のみで、今回訪問した高等学校は、「伝統と文化」を大切にしており、生徒の個性、能力を發揮し自分の趣味に合わせたカリキュラムが組まれています。

特色としては、陶芸、彫刻、民族服ショー、切り絵などのカリキュラムが組み込まれており、展示室には、木の根や楠の木の工芸品が置かれ、その上に繊細で可愛い蟹の彫刻が加えられていました。中国では、蟹をシェと呼んでいることから、蟹を2つ並べてシェ シェとジョークを交え、私たちを大歓迎してくれました。

また、生徒の漢服ショーなどを鑑賞し、その後の意見交換会の中で生徒に「人気の職業は何ですか？」と質問したところ、「IT関係です。」との答えがありました。





【義烏市綉湖小学校 見学】生徒数1,600名・36クラス

湖沿いにある、義烏市綉湖小学校は、100年の歴史があり、スローガンは、「誠実・好学・活発・向上」です。

特色としては、本を読み、本を通して良い人に育てようとしていることなど、人間形成に力を入れており、また、書道にも大変力を入れていきます。児童たちは、小学校の勉強も大切にしながら、読書でマナーを学んでおり、どの児童も礼儀正しく、感心させられました。



今回、淡路市海外視察団副団長として、中国共産党義烏市委員会 盛秋平書記（前義烏市長）をはじめ、多くの皆様と交流できたことに対し、心より感謝申し上げます。今回の視察を通じ、民間企業団の方たちが博覧会場などで熱心に交渉や質疑をするためには、かなり体力が必要であると感じました。

義烏市の花である「薔薇」が満開で沿道を埋め尽くした良い時期に訪問でき、非常に実りのある視察研修でした。



中国浙江省義烏市 視察派遣報告書

ユーアールエー株式会社

井植 啓悟

2017年5月6日から9日まで淡路市の友好都市である中国浙江省義烏市に「輸入商品博覧会視察、淡路市友好訪問団」の1人として民間企業から参加させていただきました。まずは淡路市役所、中国義烏市の皆様、淡路市商工会ならびにご同行していただきました皆様に御礼申し上げます。

私自身、今回初めての中国訪問でしたので、渡航前より楽しみにしておりました。1日目、5月6日に関空を出発し、夕刻に杭州の空港に到着。そこから約1時間半をかけてマイクロバスにてホテルに向かいました。

ホテルでの夕食後、義烏市内のナイトマーケットに行きました。

ナイトマーケットでは、さまざまな日用品雑貨、衣類、アクセサリやコピー商品、飲食などを扱っている露店が所狭しと並んでいました。

露店では衛生的に怖いので、買うことは控えさせていただきます。

地元の人々も多く買い物に来られているようで、活気のある市場でした。また、多くのアラビア人が目につき、調べてみると中東からのバイヤーが特に多いようで、アラブ人の街まであり、街の看板もアラビア語の表記が結構見られました。



2日目の午前中には、「中国義烏輸入商品博覧会」の視察に行きました。

まずは日本企業のブースに向かいました。静岡県と民間の企業が出展されており、各ブースの話を聞いてみると、まだ現地での商売としては、これからの印象を受けました。また、ほかの日本企業も出展されておりましたが、大きな商いはまだチャレンジ段階でこれからの展開も手探りな感じでした。ただ日本の輸入商品を多く扱っている中国の貿易会社の話では、日本製品、特に日用品（化粧用コットン、キッチン雑貨、ウェットティッシュ、ベビー用品など）を中心に売れているようでした。その会社は、日本の商品を仕入れるために日本

国内の企業である FK JAPAN という会社を通じて仕入れているようで、弊社もその会社と商談してみるという方法もできそうだと感じました。

他の日本人ブースでも話を聞くと、今回の展示会の出展費用は3 × 3 mのコマで約2000元程度とのことで、特に高いとは感じませんでした。

ヨーロッパのブースでは、特にワインなどの酒類のメーカーが大掛かりなブースを出展していました。ヨーロッパは陸続きなので、鉄道貨物などの物流体制があります。博覧会では食品自体の展示は全体的に少なく、賞味期限の長いものでかつ需要がなければ取引は難しいと感じました。

弊社でも賞味期限の長いものを中心に取引ができる様であればチャレンジしてみたいですが、ISO や HACCP などの認証を受けている工場などの整備を早々に進めなければいけないことを改めて痛感しました。

午後には義鳥都市計画展示館の視察に行きました。

義鳥市の歴史や都市計画などの説明ブースを見学しました。

入口の LED の映像設備は、映画館のスクリーン以上のサイズで度肝を抜かれました。展示会場もとても広く、街の模型は、2階から見なければ全体が見えない超特大サイズで、こちらの施設でも圧倒的なスケールを感じました。

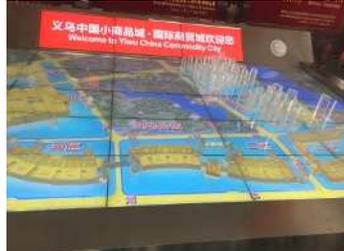


他の来館者はいませんでしたので、少しもったいない施設だなと思いました。が、今後の都市計画において官民一体となるためのヴィジョンを感じました。

そのあと義鳥国際商貿城（福田市場）を見学しに行きました。以前の報告で福田市場のことは聞いておりましたが、1号館から5号館まで建物があり、ガイドの話では全長5km、約6万件の店舗があり、1店舗を約3分で見て回ると1日8時間営業として、丸々1年かかるという驚愕のスケールでした。神戸三田プレミアム・アウトレットの店舗数が約220店であるのと比べると、約2.73倍のサイズ。信じられないサイズで、ここから商品を探すのにはツアーガイ

ドが必要になるなと思いました。

店によってはバラ売りもあるようですが、基本的にはロットでの販売をメインとしています。圧倒的な安さですが、品質を見極めるのが難しく、不良率が気になりました。また翌日行った5号館では世界各国の民芸品や日用品、酒類



などの店が立ち並んでいました。日本の商品、韓国の商品を中心に扱っている店舗の方とも話げできました。WeChat（中国版のLINE）での名刺交換も念のためさせてもらいました。

その夜には人民政府の方々と交流会をしました。政府の高官方とは、初めは緊張しましたが、中国の乾杯(カンペイ)を繰り返すうちに和やかなムードで終わりました。政府との交流や、バックアップの関係があるので、義烏市で何かトライできる可能性もあると思えました。



翌日は、高校と小学校に行きました。横断幕や電光掲示板などで我々のことを歓迎していただきました。中国の生徒数の多さ、また学校教育だけでなく集団生活や自国の歴史文化などを重んじ、小学校では習字や読書を重んじて人間形成を行っていることを聞いて感銘を受け、今までの中国人のイメージが少し変わった気がしました。



肉加工工場で金華ハム工場の見学に行きました。

この会社では飼料から肉の加工までの各製品を作っており、一気通貫して事業を行っています。工場内は撮影禁止の為、写真はありませんが、大量の肉をクレーン上の何層にもなるパレットで運び、前処理、塩漬け、低温熟成、中温熟成を大量にできる工場でした。弊社のビール工場における生産量の向上、効

率化の参考になりました。

夜には知東学会の民間企業の若手社長たちと交流会をしました。例年のごとくのように、53度ある白酒で乾杯をしました。とても友好的な対応で、すぐ打ち解け楽しいひと時でした。また弊社でクラフトビールの製造を行っている話をする各国のクラフトビールが置いているおしゃれな店にも連れて行っていただき、今後もいろいろ紹介してくれると約束していただきました。



今回の視察に行く際に、弊社の食品の輸出の可能性を考えておりましたが、賞味期限の短いものの輸出は、義烏市では厳しいのが現状でした。また、やはりマーケティングも必要で、どういった規模で誰にどう売っていくのかを決めて販売していくかが非常に重要であると思いました。また弊社では輸出を全くしていないので、物流面のノウハウも含め、情報収集し勉強していく必要性を感じました。しかしながらとてもいい機会になり、また、弊社のクラフトビールを海外に売っていくという夢に一步近づいた視察となりました。

淡路市海外視察報告書

株式会社 森水産
森 淳

今回で2回目となる義烏市への視察。前回と大きく街の様子も変わり、市全体が急成長をしていると実感いたしました。今回もまた貴重な体験をさせていただいたことに感謝いたします。

義烏市へ到着してまず感じたことは、現在かなりの高層ビルが建設されていると同時に、ある地域では昔と変わらない建物や、空き家が多くあることなど急成長の中で、格差が出てきていることでした。

初日に夜市に出かけ、そこでもまた格差を感じました。昼間は世界規模の国際小商品博覧会を開催している市が、夜は闇市に近いマーケットがあること。実際この市場で生計を立てている人もかなりいるのだろう。今後の経済発展していくうえで、大きな問題になるかもしれないなと思いました。



高層ビルが立ち並ぶ街並み



博覧会・静岡県ブース

2日目は中国義烏輸入商品博覧会の視察に行き、静岡県のブースを中心に何社かとお話をさせていただきました。出店するメリットや、また日本からの輸出経路など話を聞きました。日用品と違って、日本の食品を扱っているところが少なく、食に関してはこれから伸びてくる分野だと感じましたが、現実的に水産業界ではクリアにしなければいけない問題がたくさんあると思います。



福田市場



タッパを探す

その後、義烏市都市計画展示館と義烏国際商貿城（福田市場）を見学に行きました。福田市場では、冷凍できる薄めのプラスチックケース（タッパ）をサンプルとしていただきました。単価としては日本で仕入れるよりはるかに安いですが、物の品質や輸送コストを考えると微妙な感じがします。物に対して保証がないのも少し気になります。

3日目は地元全寮制の高校と小学校を見学。先生方と意見交換会も行いました。学校の方針や子供たちの活動などを聞きましたが、やはり気になるのは子供たちに日本のことをどう教育しているのかということです。そのあと華統肉製品有限会社と義烏港を見学。夕食は知東学会との交流会でした。

義烏港の見学で最も気になったのは、冷凍コンテナを扱っていないこと。弊社としては冷凍したものを今後扱ってもらえるのがポイントとなってくると思います。

最後にこの視察を通じて感じたことは、まだまだ食に対するビジネスが生まれていないこと。ただ可能性が十分にあることも身をもって感じました。また知東学会のメンバーとも交流ができ、ビジネスパートナーとしてのお付き合いができればと思います。

来年、淡路市が輸入商品博覧会に出展することを期待します。

平成 29 年度淡路市海外視察団派遣事業報告書

株式会社 淡味

村津徳昭

2017 年 5 月 6 日から（土）から 9 日（火）の 4 日間、淡路市海外視察団の民間企業からの一員として参加させていただき、淡路市役所ならびに淡路市商工会に感謝申し上げます。急成長を遂げようとしている義烏市と世界の貿易拠点を肌で感じることができ、貴重な体験をさせていただきました。

1 日目は杭州空港に到着後、政府関係者のお迎えがあり専用車にて義烏市へ向かいました。車中で思うことは、今からどんな街並みが待っているのか、どういう人達と出会うのか、ビジネスの中でどんなチャンスがあるのだろうか？など不安と期待とが入り交じりホテルに到着。最初に驚いたのが、フロント、レストランのスタッフが英語を喋れないことでした。



夜市の風景



身長体重測定のお店

ホテルで食事をした後は、視察団の皆様全員で夜市へ。商品自体の価値観だけで商売をしているここはまた言葉では表せない独特な雰囲気を持つマーケット地帯でした。特に気になったのはアラブ系の人たちが多かったこと。ここでも商品を買付け、世界中に売り歩いているのだろう。

2 日目は中国義烏輸入商品博覧会の視察と義烏市都市計画展示館を見学、義烏輸入商品博覧会では主に静岡県の出展ブースを見学。

最終日の昼食には義烏市の地元料理をいただきました。いつかこの町にも日本食が食べられるお店ができる時が来るのかなと思いながら地元料理をいただきました。

義烏市は10年後20年後、本当の意味での国際都市になるのではないのでしょうか。現在建設ラッシュである巨大タワーの数々が完成し、レベルの高い企業や人が集まると、絶対的な経済都市になると思います。その前に友好都市の利点を生かして、義烏市とのパイプを強力的なものにしておきたいものです。

淡路市商工会

阿津 充俊

中国浙江省義烏市を訪問してみて

中国本土への渡航は初めてなので初見での感想になりますが、都市計画により開発された都市部の街並みと、未開発(開発途中含む)の街並みの差が非常に大きい点に驚きました。開発途中の地も高層ビルや高層マンションの建設ラッシュが続いており、今後更に、何十万人単位で人口が増加するんだなと感じました。しかしながら、目まぐるしく発展していく街のスピードに、住民がついて行けてない感も見受けられました。それは言語についても同様で、中国語以外の言語が全く通じずコミュニケーションに苦労した点が挙げられます。私たちの住む淡路島にも、世界中から観光客が訪れる昨今、言語の問題は課題で、必要最低限の他言語でのコミュニケーション力は身に付けておかなければならないと改めて実感しました。



中国義烏輸入商品博覧会を視察して感じたこと

国際的な取引を目的とする様々な企業が、世界中から出展している博覧会に、日本(静岡県)から出展している企業 12 社を訪問し、さまざまな情報交換を行いました。

お話しさせて頂いた企業の中で「三立製菓(株)」様からのお話がとても印象に残りました。“10 年ほど前から企業独自で中国での事業展開を試み、試行錯誤、紆余曲折を繰り返し、やっと自社単独で事業運営できるようになった。”と現在に至るまでの苦労話を聞かせて頂きました。三立製菓(株)様だけではなく、どの企業も共通している事は「連携している現地のパートナー企業があ



る」「現地法人を設立している」という事でした。当会の会員企業の中に既に中国で事業展開している事業所もありますが、やはり同じような取組をしております。ただ、そこに至るまでの経緯は、口で言うほど簡単では無く一朝一夕にはいかない事を再認識しました。

それぞれの立場で今後考えられる民間レベルでの交流

義烏市と淡路市の行政間の結びつきもあり、民間企業団体の方々も非常に友好的且つ協力的な対応をしていただきました。若手企業家の皆様は非常に



熱心で前向きな交流ができたと思います。その上で、今後どう生かして行くのかが重要となってくると思いますが、商工会の立場として考えられる事は、海外展開を視野に入れている会員企業に対して情報提供し、企業間交流のパイプ役を担っていくことで、今回の視察が意義のあるものになると考えます。

義烏市と淡路市との今後の交流に期待すること

今回、昨年までと違い新たな視察先として、学校教育現場を訪問させていただきましたが、そこで義烏市側から提案のあった、教育現場における子供たちの交流は非常に大事なことだと感じました。将来を担う子供たちに、自分たち自身で色々なものを見て、体験して、自分たちが暮らす日本がどういう国なのか、諸外国はどんな国なのかを知り、国際的な視野を養う機会をどんどん与えて頂きたいと思います。



平成 29 年度 淡路市海外視察団（中国義烏市）視察報告書

淡路市企画政策部秘書広報課
国際交流員 薛 秋燕

義烏市への訪問は、昨年 10 月の義烏国際小商品博覧会視察に引続き、今回で 2 回目の訪問となりました。メンバーは淡路市内の企業から 3 名、商工会から 1 名、市から 3 名の計 7 名での訪問団でした。今回の訪問の目的は世界規模で開催される義烏輸入商品博覧会及び日用品卸売市場を視察し、民間経済交流の活性化と博覧会でのブース出品に向けて検討していくことでした。



義烏輸入商品博覧会視察（5月7日）

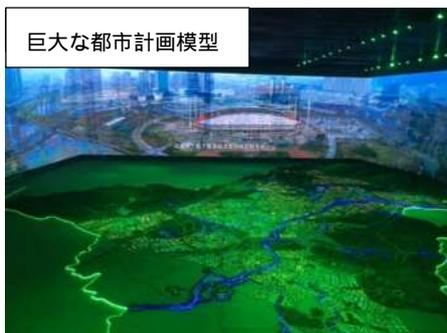
義烏市人民政府の事前情報により、今回静岡県経済産業部が 12 社の企業を集めてブース出展されているとお聞きしていたので、まずは静岡ブースに向かいました。商品としては、鰹節、イワシカレー、国産椎茸、クッキー（源氏パイ、平家パイ）、富士山の水、眠気スッキリギラギラ君、ウェットティッシュ、運動靴などがありました。静岡ブース出展者にブース出品のノウハウなどを聞いてみると、初めて中国見本市でブース出品をする場合は、日本貿易振興機構(ジェトロ)と相談してみるという方法もあるとのこと。今回の出展費用は静岡県経済産業部が全額負担し、往復旅費のみ業者負担だったとのことでした。



義烏市都市計画展示館見学（5月7日）

2016 年 1 月にオープンした 2 階建てで、展示面積 12000m²の施設です。なかでは「中国奇跡・世界義烏」をテーマに、義烏市民が代々伝承を受けた夢に向かって行商の道を切り開くことで都市へと発展した義烏市の歴史が超大型ス

クリーンで放映されていました。義烏市は習近平国家主席が提唱する「一帯一路」、中国から欧州までの経済的結びつける海と陸の「21世紀シルクロード構想」を進めています。スペイン・マドリードまでの総延長1万3000キロを結ぶ鉄道「義新欧鉄道」の出発地点が義烏です。このように義烏は絶えず進化しており、経済発展していることを強く感じました。



巨大な都市計画模型



「21世紀シルクロード構想」映像

義烏市人民政府との交流会（5月7日）

中国共産党義烏市委員会書記であり前義烏市長の盛秋平氏、義烏市教育局長の王建新氏、人民政府外事弁副主任の王列鋼氏と交流会がありました。交流会で「淡路市にある企業の方々の中国進出や事業発展に全面的に協力する」という言葉が印象に残りました。盛書記の話では、義烏国際商貿城（福田市場）の5号館（輸入商品館）では保税商品展示館を設置しており、Made in Awaji の商品を展示することができるそうです。ここを通して、日本の商品を扱っている中国貿易会社と海外での販売ルートを作ることができるのではないかと思います。



盛秋平書記(右から2人目)



保税商品展示館

知東学会との交流会（5月8日）

知東学会の毛会長を含む5人のメンバーとの交流会も有意義でした。毛会長から「もっと多くの人たちに淡路市のことを知ってもらうために、義烏市で淡路市観光と特産品をPRする看板を設置したらどうか」と



53度の白酒で乾杯

の提案を受けました。義烏市との交流を通じて、お互い Win - Win の関係を構築できるのではないかと感じました。

義烏第六中学校（高校）と義烏市綉湖小学校見学（5月8日）

義烏市教育局長の王建新氏から、これから淡路市と教育分野の交流を行いたいとの要望があり、義烏第六中学校（高校）と義烏市綉湖小学校を見学しました。高校では学校教育のほか陶芸、彫刻、切り絵などの授業も取り入れています。小学校では習字や読書を重視し人間形成をしています。現在の中国における学校教育は私の学生時代の「試験志向の教育」と違って、伝統文化や人間形成を大事にされていることに感心しました。



～視察を終えて～

今回の義烏市訪問では、引率兼通訳として前回よりスムーズに対応できたと思います。至らないことも多かったと思いますが、皆様のご協力のおかげで無事に終えることができ、心から感謝いたします。これからは今回視察で感じたことをもとに、義烏市とさらに友好関係を築くために尽力したいと思います。

淡路市海外視察団派遣事業
中国浙江省義烏市視察報告書

発行・編集 淡路市企画政策部秘書広報課
兵庫県淡路市生穂新島 8 番地
TEL (0799)64-2501(直通) FAX (0799)64-2531
発行年月 平成 29 年 6 月